

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
16	鳥居 育世（1）	<p>1. 乳がん検診の拡充と受診率の向上について</p> <p>国民の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代となってきました。誰もがいつ、がんを発症してもおかしくない状況で早期発見・早期治療は罹患者の生存率を上げるだけでなく、いち早い社会復帰へもつながります。厚生労働省でも、がん検診の受診率を50%以上とすることを目標に、がん検診を推進しています。</p> <p>女性特有の乳がんや子宮がんも例外ではありません。乳がんの罹患者率は年々増え続け、50年前は50人に1人の割合だったものが、11人に1人にまで増えています。また、30歳から64歳の女性の死亡原因のトップが乳がんとなっています。</p> <p>子宮がんや乳がんなど女性特有のがんは、年齢が上がるとともに増えるがんとは違い、30歳代から増え始め、40歳代後半から50歳代後半にピークを迎えます。最近では20歳代や閉経後も増え、70歳代にも罹患者が増えています。</p> <p>富士市でも各種がん検診を進めています。年齢に応じてリスクの高くなる年代に合わせ、がんドック検診やセット検診など、気軽に受診できるお得な検診メニューがあり、気軽に検診を受けられるようがん検診等受診券や、無料クーポン券を発行しています。</p> <p>また、子宮頸がんでは20歳以上は年1回、41歳以上は2年に1回助成され、乳がんは40歳以上で前年度検診を受けていない人が助成の対象となり、41歳になる方は全員無料で検診が受けられます。</p> <p>さらに、仕事や子育て中など、平日の検診が難しい方のために日曜日の検診も実施され、インターネットでも予約ができるようになり便利になりました。</p> <p>受診率が上がるように大変努力されていると思いますが、残念ながら受診率は子宮がんが48.3%、乳がんが38%と、国や県の平均を下回っている状況です。</p> <p>このような現状を踏まえまして、富士市での検診の拡充と受診率の向上に向けて、以下質問いたします。</p> <p>(1) 乳がん検診の30歳代からの検診拡充について実施意向はあるのでしょうか。</p> <p>(2) 受診率の向上について</p> <p>① 乳がん検診の受診方法について、日曜日の検診回数の拡充やレディース検診の回数の拡充などは検討されているのでしょうか。</p> <p>② 乳がん検診の啓発活動について、どのような啓発活動を行っているのでしょうか。また来年度、新たに取り組むことがあるのでしょうか。</p>	市長 及び 担当部長